魅力発信！えひめ農業

令和7年4月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、4月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
４月のトピックス５選 3
さといも「親芋直接採取増殖法」の増殖・栽培実証がスタート 3
単肥配合技術をいちご高設栽培で実証開始 3
土着天敵の利用の横展開を進める 4
JA えひめ南みかん学校７年度の活動開始 4
小麦・はだか麦の防除本格化に向けて 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
（株）イーキウイと発芽状況等を確認 6
「ひめの凜」スタートに向け講習会を開催 6
幻の白芋「七福いも」の陸地部での生産実証がスタート 7
若い農業経営者大会で思いを伝える 7
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 8
さといも軟腐病対策の実証スタート 8
学校給食米田植え体験　地産地消を促す 8
■東予地方局　産地戦略推進室 9
いちご優良苗の育成に向けて、多面的な支援を開始 9
トライアングルエヒメの横展開を支援 9
石鎚黒茶の製造技術継承に向けて 10
■今治支局　地域農業育成室 10
社会福祉法人による「甘平」の栽培を支援 10
さといも優良種苗新増殖技術確立に向けた実証を開始 11
■中予地方局　地域農業育成室 11
さといも優良種芋増殖技術の実演講習 11
JA が実施する就農研修を通じた新規就農支援 12
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 12
「ひめの凜」の田植前講習会を開催 12
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 13
久万高原町営農支援センターで就農研修を開始 13
■中予地方局　産地戦略推進室 13
「さくらひめ」の母の日向け出荷を開始 13
■南予地方局　地域農業育成室 14
水田の濁水抑制による河川環境保全の取組み 14

■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 14
修学旅行の受入拡大を目指して 14
■南予地方局　地域農業育成室　愛南農業指導班 15
北の大地で「愛南ゴールド」(「河内晩柑」) をアピール 15
連年安定生産と知名度アップを目指して！「媛小春」春季研修会を開催 15
■八幡浜支局　地域農業育成室 16
ドローン活用によるかんきつ栽培の省力化を目指して実証ほを設置 16
スマート農業技術の実証成果を報告 16
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 17
生活研究協議会活動の強化に向けた研修会を開催 17
■八幡浜支局　産地戦略推進室 17
令和７年度の台湾への柑橘輸出に向けて検討会と現地視察を実施 17
■農産園芸課　高度普及推進グループ 18
土着天敵利用による害虫発生抑制効果を検証 18

４月のトピックス５選

標　題	さといも「親芋直接採取増殖法」の増殖・栽培実証がスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月８、24、25、28、30 日	場所	新居浜市多喜浜、西条市橘、小松、石根	
指導対象	新宮（農事組合法人）、妙口原（農事組合法人）、生産者２人	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	○管内では、昨年夏の異常高温等により、さといもに乾腐病や軟腐病などの土壌病害が多発したことから、優良種苗の確保のため今治支局地域農業育成室が考案した「親芋直接採取増殖法」による増殖実証を開始した。 ○また、本年度に新増殖法に取り組む農事組合法人や JA 等に、同増殖法のメリットや採苗のポイントを説明し、生産力を検定する実証４ほ場に増殖苗を定植した。			
結果と今後	○「親芋直接採取増殖法」は、廃棄していた昨年の親芋から苗を増殖するもので、親芋分割時に土壌病害へのり病が確認できるだけでなく、従来の育苗方法に比べ育苗期間が 15 日程度と大幅に短縮でき、簡単に増殖できることから生産者の期待も高い。 ○今後、局予算事業で同増殖法の確立に取り組む今治支局とも連携しながら新増殖法の技術確立と技術普及に取り組み、気象変動等にも対応できる産地づくりを推進する。			

親芋を分割する採苗作業

親芋を分割して得られた増殖苗

実証ほでの増殖苗の定植

標　題	単肥配合技術をいちご高設栽培で実証開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月４日	場所	今治市朝倉下	
指導対象	いちご生産者（１人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○当室では肥料コスト削減を目的とした単肥配合技術の実証に取り組んでおり、「甘長とうがらし」での成果を踏まえ、新たに「いちご高設栽培」での実証を開始。 ○従来使用されていた配合液肥と同等の成分になるように単肥を計算・自家配合。 ○実証期間中（今作終了の５月末まで）は、液肥の給液及び廃液の EC や葉柄の硝酸値を調査し、配合液肥との比較を行うことで、コスト面や生育状況における有効性を検証する。			
結果と今後	○試算では、単肥配合によって肥料コストを約 47%削減できる見込みであり、４月末時点では生育状況に大きな問題は見られず、従来の液肥と同等の生育が確認できた。 ○資材高騰が続く中、単肥配合は肥料コスト削減に有効な技術と考えており、生産者の期待も大きいことから、実証結果を踏まえ、次期作では周年での単肥配合栽培を実証する予定。 ○今後も JA と連携し、いちご部会などを通じた地域への技術普及を図る。			

JA と連携した実証開始

単肥を１つずつ量って配合

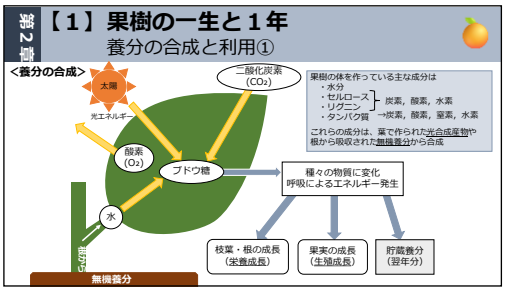
順調な経過を確認（いちご高設栽培）

標　題	土着天敵の利用の横展開を進める		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 24 日	場所	松山市施設野菜生産ほ場	
指導対象	施設野菜生産者（９人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央） 松山市農業指導センター	
普及指導内容	○管内では土着天敵利用マニュアル（施設・露地なす）を作成して、施設なすを中心に施設トマトや施設きゅうりで天敵を利用した防除技術を推進しており、３月から定植が始まった今作の施設野菜においても、土着天敵（タバコカスミカメ）を順次放飼しているところ。 ○また、松山市農業指導センターで栽培している施設アボカドでは、温暖化でコナジラミ類が多発していることから、対策としてタバコカスミカメと天敵の働きを高める温存植物（クレオメ）の利用を提案した。			
結果と今後	○４月上旬にタバコカスミカメを放飼した９戸では、アザミウマ類及びコナジラミ類の発生は確認されず、タバコカスミカメが定着していることを確認した。 ○引き続き、多くの施設野菜等でタバコカスミカメの利用を推進するとともに、施設アボカドについても放飼後の効果を確認する予定。			

左：施設きゅうりに天敵を放飼

右：指導センター職員に天敵利用を説明（施設アボカド）

標　題	JA えひめ南みかん学校７年度の活動開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月３日、17 日	場所	宇和島市	
指導対象	みかん学校研修生 （新規３人、２年目１人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	○かんきつ農業の担い手確保を目的に JA えひめ南が設立した「みかん学校」の入校式が、３人の新規研修生を迎え開催された。 ○当校では、果樹栽培技術を体系的に学ぶこととしており、当室が講師を担当する「果樹栽培の基礎」が 17 日から始まり、果樹の植物生理等について講義を行った。			
結果と今後	○受講生からは「これまで知らなかった用語の意味や植物の生態について学ぶことができ、勉強になった」と前向きな意見を聞くことができた。 ○今後、年間 10 回の果樹基礎講義を行うとともに、就農に向けた支援制度を紹介するなど、研修生を確実に就農に導くべく、関係機関と連携して支援する。			



左：みかん学校入校式

右：第１回講義内容抜粋

標　題	小麦・はだか麦の防除本格化に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年４月７日	場所	西予市宇和地区（JA 東宇和カントリーエレベーター）	
指導対象	西予無人ヘリ防除連絡協議会（20人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○無人ヘリによる病害防除を行うため、麦の生育状況に応じた赤かび病防除と安全操作に関する講習会を開催。 ○赤かび病菌は人や家畜に有毒なかび毒であり、小麦に含まれるデオキシニバレノール（DON）の基準値が 1.0ppm を超えると食品衛生法上、流通することができない。 ○このため、今年産麦の生育ステージ等を情報提供し、開花期以降の適期防除に備えた。			
結果と今後	○４月 21 日からヘリ防除を開始し、小麦は２回、はだか麦は１回実施する計画（状況に応じて応急防除を追加）。 ○当協議会は、宇和地区内の水稲・麦・大豆の防除を担っており、担い手の負担軽減のため、無人ヘリによる防除体系をしっかり支援する。			

【西予無人ヘリ防除連絡協議会】
宇和４地区（中川、郷内・西山田、中央、田之筋・伊賀上）で各１機保有し、農家からの申し込みに応じて防除を請け負う。
Ｒ６は水稲 806ha、麦 386ha、大豆 261ha で防除を実施。

説明する普及職員（左奥）

無人ヘリ安全講習

えひめ農業

標　題	（株）イーキウイと発芽状況等を確認		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 11 日	場所	西条市丹原町長野	
指導対象	―	連携機関	ゼスプリ　フレッシュ　プロデュース ジャパン株式会社	
普及指導内容	○大規模なキウイフルーツ栽培に取り組む（株）イーキウイの栽培ほ場において、同社及び販売を手掛けるゼスプリフレッシュプロデュースジャパン（株）の職員とともに、発芽状況を確認するとともに、今後の栽培計画等について意見交換を行った。 ○（株）イーキウイは、ニュージーランドを拠点にキウイフルーツを生産する外資系グループが母体となり、平成 30 年に西条市に現地生産法人（社員 13 名うち日本人 12 名）を設立し、「サンゴールド」を約 18ha 栽培している。			
結果と今後	○本年度の発芽状況は、例年より少し遅れたものの大きな問題はなく、同園地ではほ場全面をネットで被覆しているため、昨年に大量発生したカメムシの被害を回避できていること等から、同法人は７年産の生産量を 200ｔと見込んでいる。 ○今後も同社と連携し情報共有しながら安定生産や生産拡大等に取り組む。			

イーキウイ職員と発芽状況を確認

ネットで全面被覆されたほ場

被覆に使用されているネット

標　題	「ひめの凜」スタートに向け講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 24 日	場所	JA えひめ未来(新居浜経済センター、西条あぐりセンター)	
指導対象	JA えひめ未来「ひめの凜」認定栽培者（68 人）	連携機関	JA えひめ未来 農産園芸課	
普及指導内容	○７年度の「ひめの凜」の栽培開始を前に、栽培管理と認定栽培者制度の周知を目的に講習会を開催した。 ○講習会では、同品種の品種特性と令和６年産の状況を踏まえ、重要な作業である水管理、中干し、穂肥施用、適期収穫を中心に最高品質であるプレミアムクオリティを目指した栽培管理技術を説明した。			
結果と今後	○参加者からは栽培管理に関する質問が次々と出されるなど、夏場の耐暑性に優れた同品種の栽培に高い関心を持っていることがうかがえた。 ○６月末～７月初めには、中干講習会の開催を計画しており、引き続き高品質米の生産に向け切れ目のない指導を行う。			

栽培管理の説明(西条)

認定制度の説明(新居浜)

栽培のポイントを説明

標　題	幻の白芋「七福いも」の陸地部での生産実証がスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月８、11 日	場所	新居浜市大島･角野･西条市内採苗圃場	
指導対象	－	連携機関	新居浜市、サツマイモ苗販売法人	
普及指導内容	○新居浜市大島で生産されている白芋「七福いも」の市内陸地部への生産拡大を推進するため、市が確保した育苗ハウスで種芋の定植を指導した。 ○また、陸地部に適応する品種選定を行うこととし、サツマイモの苗を生産する生産法人のハウスで「七福いも」を含む白芋系３品種の実証を開始した。 ○これまで、大島では早期に採苗するためのハウスが確保できなかったことや、夏の高温時に散水するための農業用水が確保できなかったこと等から、島内だけでは十分な生産量を確保するに至っていなかった。			
結果と今後	○現在、種芋から芋づるが順調に生育しており、今後、陸地部の協力農家のほ場において品種の適応性等を検討する予定。 ○引き続き市と連携しながら白芋産地の育成、ブランド化を推進する。			

七福いもの伏せ込み作業

市職員との種芋の定植

苗販売法人との打ち合わせ

標　題	若い農業経営者大会で思いを伝える		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 23 日	場所	松山市民会館	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	○第 61 回愛媛県若い農業経営者大会において、県内各地区の代表によるプロジェクト発表及び意見発表が行われ、当地区からそれぞれ１題ずつの発表があった。 ○プロジェクト発表では、豊田果歩氏がアスパラガスの廃棄部分を使った商品開発に取り組み、お茶として商品化し、販売した経緯と今後の計画について発表した。 ○意見発表では、可児義次氏が、青森県での農業研修の体験と、就農後は実状に合った経営を考え、ムダを無くし、余裕を作りたいとの思いを発表した。			
結果と今後	○プロジェクト発表の豊田氏は最優秀賞、意見発表の可児氏は優秀賞となり、豊田氏は 10 月に開催される中国四国ブロック研修会で愛媛県代表として発表を行う。 ○今後も青年農業者や新規就農者に対し、細かな支援活動を継続する。			

プロジェクト発表

意見発表

発表者と協議会の先輩

標　題	さといも軟腐病対策の実証スタート		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年４月２日	場所	四国中央市豊岡町	
指導対象	さといも生産者（19 人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○管内の令和６年産のさといもは、夏秋期の高温の影響を受け生育不良や土壌病害が発生し出荷量が減少したため、その対策技術の確立が急務となっている。 ○そこで、当班は、被害軽減技術の確立を図るため、JA うまと連携し、マルチの色（黒、白、シルバー）や加工処理方法（マルチ表面に小さな孔）に加え、銅剤の散布時期や回数の効果を確認する実証ほを設置した。			
結果と今後	○定期的に地温を測定し、地温の上昇抑制効果等の確認を行うこととしている。 ○また、定期的に実証ほ等を巡回し、生育や病害発生状況を確認しながら、時期別の技術対策等について生産者等へ的確な指導をしていく。			

左：マルチ色別の効果の実証ほで地温を測定

右：軟腐病による茎葉の枯死（R6 年 10 月撮影）

標　題	学校給食米田植え体験　地産地消を促す		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年４月 26 日	場所	四国中央市土居町蕪崎　ほ場	
指導対象	市内小学校児童及び保護者（182 人）	連携機関	四国中央市、JA うま、NOSAI えひめ	
普及指導内容	○四国中央市地産地消推進委員会は、市内の小学生等を対象に「学校給食米田植え体験会」を開催し、地域食材への関心と消費拡大を促した。 ○指導班は「イネの学習」を担当し、参加者に籾播きから収穫までのイネの生育過程と主な農作業等を説明した後、参加者が手植えする田植え作業を指導した。 ○学校給食米は、市内で栽培されたコシヒカリやにこまるを「うまそだち」の名称で提供しており、その一部は JA 直販所でも販売されている。			
結果と今後	○参加者からは、「稲を育てるのが大変なことがわかった」「今日植えた稲で早くお米が食べたい」などの声が聞かれ、地域食材への意識の高まりが見られた。 ○８月下旬には収穫祭として稲刈り体験等を予定しており、今後とも児童等の食農教育や地産地消の取組みを支援する。			

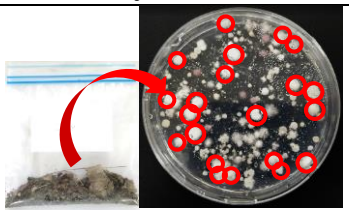
左：指導者の手ほどきを受け全員で手植え

右：丁寧な作業

標　題	**いちご優良苗の育成に向けて、多面的な支援を開始**		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 22 日	場所	西条市神戸	
指導対象	JA えひめ未来いちご部会生産者（７人）	連携機関	JA えひめ未来、農林水産研究所	
普及指導内容	○本格的ないちごの育苗管理が始まることから、JA えひめ未来いちご部会所属の生産者を対象に、育苗管理技術や高温対策、病害虫対策について講習を行った。 ○昨年度は夏季の高温により、生育停滞や定植後の活着不良、収穫期の大幅な遅延が発生し、需要期の 12 月の出荷が大幅に減少したことから、講習資料の刷新を行い、最新の高温対策技術を紹介した。 ○また、育苗期の重要病害「いちご萎黄病」のまん延により、苗不足が深刻であったことから、農林水産研究所と連携し、感染経路の特定や対策についての試験を開始した。			
結果と今後	○生産者からは、「必要としていた情報を得ることができて感謝している。高温対策をしっかり行い、今年こそはクリスマスに出荷したい」等の声が聞かれた。 ○今後、JA 周桑、JA 東予園芸、JA うまの生産者に対しても講習会を実施予定。 ○今後も、農林水産研究所と連携して高温や病害に対する実証試験を行うとともに、巡回指導を強化して、多面的に優良苗育成の支援を行っていく。			

育苗管理講習会

育苗状況



萎黄病の感染経路を検証
（育苗ほの床土の菌密度を計測）

標　題	**トライアングルエヒメの横展開を支援**		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 18 日	場所	西条市丹原町、松山市下伊台	
指導対象	ブドウ農家１戸（３人）	連携機関	（株）ゴールドラッシュ	
普及指導内容	○当室では、トライアングルエヒメ「デジタル実装加速化プロジェクト」で（株）ゴールドラッシュが実証中のブドウ根域制限栽培の横展開を図るため、バラ栽培跡地でブドウ栽培を検討中の農家に対し同システムの導入を勧めている。 ○上記の技術を勧める理由は、バラ跡地の土壌は高濃度に塩類が集積しており、土壌と隔離できる根域制限栽培が有利になることに加え、デジタル技術の活用によりブドウの栽培管理が容易になるため。 ○この度、（株）ゴールドラッシュの実証ほ場を農家と視察し、スマートフォンで栽培管理をリアルタイムで制御できるシステムや、定植後２年で収穫できる根域制限栽培のメリットについて説明を受けた。			
結果と今後	○視察を終えた農家からは、デジタル技術を活用したブドウ栽培に挑戦したいとの意向が示されたことから、導入に向け引き続き支援を行う。 ○東予地域では、ブドウの新規栽培者が増加していることから、トライアングルエヒメ事業等を活用しながら、ブドウ産地の拡大とスマート農業の普及推進を図る。			

バラ跡地でブドウ栽培を検討

根域制限栽培の説明を受ける

スマートフォンでの養液管理

標　題	**石鎚黒茶の製造技術継承に向けて**		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 15 日	場所	東予地方局西条第２庁舎	
指導対象	石鎚黒茶協議会	連携機関	西条市、県立西条農業高校	
普及指導内容	○当室が活動を支援している石鎚黒茶協議会が通常総会を開催した。 ○総会では、新たに賛助会員として愛媛県立西条農業高等学校が加わることや各組織が連携して石鎚黒茶の PR 活動を行うことなどが承認された。 ○令和５年度に石鎚黒茶の製造技術が国の重要無形民俗文化財に指定されたことで、会員の意欲は高まっており、組織活動の活性化に向けた支援を継続する。			
結果と今後	○総会終了後に各組織から今年産の生産計画についての報告があり、４組織で約 450kg の黒茶の製造を目指すこととなった。 ○当室では、石鎚黒茶の営業販売活動を強化するため、各イベントへの参加や西条市内商業施設での試飲会の開催を支援する他、黒茶の伝承に向けた取り組みとして、地元の高校生や中学生に対しての教育活動についても支援する。			

石鎚黒茶協議会総会の様子

標　題	**社会福祉法人による「甘平」の栽培を支援**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年４月３日	場所	今治市桜井	
指導対象	社会福祉法人（３人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○社会福祉法人来島会が運営する農場「だんだんファーム」では、かんきつ「甘平」やぶどう「シャインマスカット」を栽培しており、障がい者の生産活動を支援している。 ○今回は支援員を対象に「甘平」（昨年度から半樹別交互結実に取り組む）の遊休部・生産部の管理法を講習した。			
結果と今後	○来島会では、障がい者が作業を理解しやすくするため、支援員がせん定鋸、電動ヘッジトリマーでおおよそ枝を整理し、その後、枯枝除去などの作業に取り組んでいく。 ○次回は甘平の摘果管理講習を行う。			

「甘平」のせん定を支援員に説明

標　題	さといも優良種苗新増殖技術確立に向けた実証を開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年４月７日、25 日	場所	今治市大西町、菊間町ほか４か所	
指導対象	さといも栽培農家（６人）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○当室では種芋の安定供給に向けた生産体系の確立に向け、局予算事業を活用し、新たに考案した親芋の腋芽を利用する優良種苗新増殖技術の実証を開始した。 ○萌芽させた親芋を総重量 50～150g 程度に分割し、芽の基部位置が深さ 15 ㎝となるように農家を指導しながら定植、実証ほを設置した。			
結果と今後	○昨年度の実証結果では、親芋を分割した苗は、芽の伸長や根の発生が種芋より速く、初期生育が良好で芋の着生期間を延ばせるため、増収が期待できる。 ○今後、当室では技術協議会を立上げ、農家や関係機関と協力し技術確立に向けた協議を実施していく。			

分割した親芋を定植

定植して１ヶ月の様子（左：種芋　右：親芋苗）

標　題	さといも優良種芋増殖技術の実演講習		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 14 日	場所	農林水産研究所	
指導対象	さといも種芋生産者（２人）	連携機関	JA えひめ中央 農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	○さといもの優良種芋の生産を目的に、JA えひめ中央管内の種芋生産者が農産園芸課主催の講習会でセル苗の生産技術について研修した。 ○講習会では、当室の担当職員が、生産者が持参した親芋を使って「伏せ込み処理」における具体的な作業を実演するなど生産者を指導した。			
結果と今後	○今回の講習会では、種芋生産者が育苗に必要な親芋（計 84 個）について伏せ込み処理を行い、今後、約１か月は地温 25℃で管理し、親芋から出た健全な芽を切り取りセルトレイで育苗する予定。 ○今後も、きめ細やかな技術指導を行い、優良種芋の安定生産が図れるよう支援する。			

伏せ込み手順を説明

伏せ込み作業の実演

【セル苗】　親芋から出た芽を小型の育苗容器「セルトレイ」に移植・育苗した苗のこと。苗質や生育の均一性が確保できる。

【伏せ込み処理】　親芋の不要な頂芽・腋芽等を除去して消毒を行った後、バーミキュライトを敷いたコンテナに入れて芽を出させる技術。

標　題	JA が実施する就農研修を通じた新規就農支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月３日	場所	みなとまちまってる	
指導対象	JA えひめ中央新規就農研修センター研修修了者及び研修生（計 37 人）	連携機関	JA えひめ中央、えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	○JA えひめ中央新規就農研修センターの研修修了式・開始式が開催され、当室の業務内容や新規就農者の活動をメディアを通じて紹介する取組等について情報提供を行った。 ○また、式後に開催された意見交換会において、新規就農にあたって直面する課題をはじめ具体的な意見を聴取した。			
結果と今後	○新規就農者は、地域の行事等に参加するなど、地域に溶け込んでいる者も多く、また、研修生は、就農という夢に向かって日々研修に励んでいる意気込みが感じられた。 ○今後は４月 18 日に東温市に開所した野菜や花木等を対象とした同 JA の就農研修センターを活用し、研修生と地域の若い農業者との交流や、スマート農業等新たな技術の指導、農業経営簿記講習など就農に向けたバックアップを行う。			

左：新規就農に関する情報を説明
右：修了生が就農に向けての意気込みを報告

標　題	「ひめの凜」の田植前講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年４月 25 日（金）	場所	JA 松山市岡田支所	
指導対象	JA 松山市「ひめの凜」認定栽培者（43 人）	連携機関	JA 松山市、農林水産研究所	
普及指導内容	○JA 松山市管内の「ひめの凜」の田植前講習会を、認定栽培者全員の「プレミアムクオリティ基準」クリアを目的に、新規 10 名を含む 27 名参加のもと開催した。 ○７年産から改正された栽培者認定制度やブランド区分の見直しについて、周知するとともに、農林水産研究所が作成した「ひめの凜」の良食味・高品質・安定生産技術の動画での説明に加え、６年産の作柄から見る栽培管理のポイントを重点的に指導。			
結果と今後	○参加者からは、「農産物検査はどこで受けるのか」「肥料の種類に指定は無いのか」「育苗センターでの苗の引き渡しの指定はできるのか」等の質問があり、JA 指導員と連携して回答し、田植えに向け認識を深めた。 ○今後は、６月下旬に中干し、８月上旬に穂肥施用の栽培管理講習会を開く予定。			

室内講習

標　題	**久万高原町営農支援センターで就農研修を開始**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年４月１日	場所	久万農業公園	
指導対象	久万農業公園研修生（３人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	○久万高原町営農支援センターでは、新規就農者確保・育成の研修事業を実施しており、今年度は３人（町内１人、町外２人）の研修生を受け入れた。 ○研修開始にあたり受入式では、町や JA から研修の心構えや JA 組織について説明し、当班からは、勉強会としてトマト栽培の概要や今月から作業が始まる育苗管理、定植準備について指導した。			
結果と今後	○今後、研修生は２年間、同センターにおいてトマト栽培の技術習得や就農計画を作成し、町内での就農を目指す。 ○当班は、定期的に研修生に対する勉強会を開催し、知識や技術の習得を支援する。			

左：研修許可証を受け取る研修生３人

右：農業指導班による勉強会

標　題	**「さくらひめ」の母の日向け出荷を開始**		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 21 日	場所	松山市、東温市、松前町の生産ほ場	
指導対象	「さくらひめ」生産者（15 人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、卒入学式や母の日等の需要期に合わせた安定出荷等を目的として、夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。 ○母の日向けの出荷を前に、適期の栽培管理（摘心、葉かき、芽かき等）や病害虫防除を指導するとともに、鉢物及び切り花の出荷状況を確認した。			
結果と今後	○鉢物は、４月下旬から母の日に向けて出荷を開始した。 ○また、切り花は、４月上旬から２番花の出荷が始まっており、母の日向けは４月末～５月上旬の出荷となる。 ○冷蔵設備を利用した夏期自家育苗と購入苗を組み合わせて定植時期を分散させる栽培体系により、出荷時期の前進化と連続安定出荷につながっている。 ○引き続き関係機関と連携した指導に取り組み、５月末頃までの安定的な出荷体制の確立を目指す。			

左：生育状況の確認

右：出荷する鉢物

標　題	水田の濁水抑制による河川環境保全の取組み		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 22 日、25 日	場所	宇和島市三間町、松野町松丸、 鬼北町泉	
指導対象	水稲栽培農家	連携 機関	宇和島市、松野町、鬼北町、JA えひめ南	
普及指導 内容	○田植え時期の濁水を抑制して広見川等の景観保全を図ることを目的に設置した実証ほで、土壌粒子が吸着して沈殿を促す効果があるカルシウム資材を散布した。 ○この取組は、地元の行政、JA、生産者代表で構成する「広見川等農業排水対策協議会」の取組みの一環であり、25 日に開催した当協議会の総会では、今後も水質保全の取組みを継続することを決議した。			
結果と 今後	○カルシウム資材を散布したほ場では、24 時間後の水田の水の濁りが抑えられていることを確認し、今後は水稲の生育や収量及び品質を調査する。 ○また、濁りを抑える効果に加えてマグネシウムを含み、水稲の生育にも効果が期待される資材も新たに実証し、景観保全に向けた取組みを推進する。			

左：カルシウム資材の散布（散布後の水質）
右：協議会総会

標　題	修学旅行の受入拡大を目指して		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年４月 21 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	鬼北地区生活研究協議会員（14 人）	連携 機関	鬼北町、松野町、（一社）八幡浜市ふるさと観光公社	
普及指導 内容	○鬼北地域では、南予地域９市町の広域連携により修学旅行を受け入れており、昨年は高等学校３校を受け入れたが、受入先の不足が課題となっている。 ○同協議会は、今後の受入先の拡大を目的に、修学旅行の誘致を担っている団体（八幡浜市ふるさと観光公社）から、民泊の受入体制や体験メニュー例等について学んだ。			
結果と 今後	○参加者は、受入までの流れや体験メニュー、受入側の体制等について理解を深めた。 ○今後も、同協議会員や管内農家を対象に、民泊や農業体験等の受入を提案し、修学旅行の受入拡大を目指すとともに、地域活性化につなげていく。			

受入体制や体験メニュー等を研修

標　題	**北の大地で「愛南ゴールド」（「河内晩柑」）をアピール**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年４月 25 日～26 日	場所	マックスバリュ厚別店（北海道札幌市）	
指導対象		連携機関	愛南町農業支援センター 食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	○愛南町が全国一の生産量を誇る「愛南ゴールド」の販路拡大と認知度向上のため、関係機関と協力し、北海道内スーパーマーケットで販促活動を実施した。 ○来店者には、県が作成したチラシやシール等を配布するとともに、「愛南ゴールド」の特性や美味しい果実の見分け方等について説明し、消費者への認知度と購買意欲の向上に努めた。			
結果と今後	○訪れた人からは「愛南ゴールド」の食べ方や味についての質問が多く寄せられ、北海道で馴染みのないかんきつに興味を持って購入する方が多かった。 ○リピーターも多く、PR 活動により着実に認知度が向上していることを確認した。 ○今後も関係機関と連携し、生産量の拡大や PR 活動を通し、さらなる販路拡大や認知度向上を目指す。			

左：「愛南ゴールド」を販売

右：来店者へ魅力を PR

標　題	**連年安定生産と知名度アップを目指して！ 「媛小春」春季研修会を開催**		機関名	南予地方局産地戦略推進室 八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 17 日	場所	みかん研究所	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会 会員等（24 人）	連携機関	「南予の媛小春」魅力アップ協議会	
普及指導内容	○県オリジナル品種「媛小春」について、会員相互の連携強化と安定生産技術への理解を深めることで生産拡大を進めるため、春季研修会を開催した。 ○販売促進活動や加工品開発状況のほか、着果数の確保を目的とした夏枝利用の提案や、12 月収穫果実の貯蔵に関する調査結果等について報告した。 ○さらに、ほ場にて、せん定を実演し、樹勢の調整や着花率の向上を図るよう指導した。			
結果と今後	○参加者からは「仲卸業者からの問い合わせが多く、栽培面積を増やしたい」「せん定を疎かにしていた。今一度取り組みたい」などの意見があり、栽培意欲の高まりが感じられた。 ○今後は、現地実証を通じて栽培上の課題解決を図るとともに、更なる知名度向上のため、新たな加工品開発等の販売支援や PR 活動に努める。			

左：協議会員等と実証結果を共有

右：春せん定の方法について実演

標　題	ドローン活用によるかんきつ栽培の省力化を目指して実証ほを設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 14 日	場所	八幡浜市五反田	
指導対象	西宇和農協、かんきつ栽培農家（５人）	連携機関	八幡浜支局産地戦略推進室、みかん研究所	
普及指導内容	○農家の間で導入に向けた関心が高まりつつある農業用ドローンをかんきつ栽培に導入した場合の効果や課題を把握しようと、当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は八幡浜市五反田に実証ほを設置した。 ○これは、協議会で「普及を進めるには、スポット的な活用ではなく、年間を通じて農薬や肥料を散布した場合の課題等を把握する必要がある」との意見があったことを受けて設置したもので、当日は現地を回りながら実証場所の選定や防除暦の詳細を検討し、年間の飛行計画を策定した。			
結果と今後	○温州みかん園で開花期から収穫期までの農薬散布と収穫後の秋肥をドローンで散布し、防除効果や労働時間等を調査することとしている。 ○散布時には、ドローンに関心のある栽培農家の見学を受け入れて、普及の一助とする。			

候補地選定に向けた園地見学

防除暦を熱心に議論

標　題	スマート農業技術の実証成果を報告		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年４月 16 日	場所	西宇和農協本店	
指導対象	西宇和スマート農業推進協議会構成員及び関係機関職員（20 人）	連携機関	農林水産研究所、西宇和農協、管内市町、にしうわスマート農業研究会	
普及指導内容	○昨年度実証したスマート農業技術の成果と今後の普及について議論を深めようと、当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は、令和６年度実績検討会を開催。 ○気象ロボットによる施肥・かん水制御技術やドローンを活用した防除の有効性等について実証結果を報告後、質疑応答や普及に向けた課題について議論した。			
結果と今後	○これらの実証は今年度も継続することとしており、議論で出た意見を踏まえながら進めていく予定。 ○当協議会の実証成果は、９月に開催予定のスマート農業フォーラムで発表するほか、当該実証にかかる視察希望者に紹介し、スマート農業技術導入の理解促進と普及に努める。			

実証成果を発表活発

議論の様子

標　題	**生活研究協議会活動の強化に向けた研修会を開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年４月 18 日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	西予生活研究協議会（27 人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	○当班は、会員が共通認識を持って意欲的に取り組めるよう、研修会の開催を支援した。 ○「生活研究グループ活動、これからに向けて」をテーマに、日頃の思いや今後の方向性などについて意見交換した。			
結果と今後	○会員からは、「若い世代と交流することで、技術を継承したい」「レシピ化できていない郷土料理の講習会を開催したい」といった前向きな意見が多く出された。 ○インターネット販売が普及している現代において、郷土料理の対面販売や伝承活動は、世代を超えて交流できる貴重な機会であることを再確認できた。 ○今年度は、小中学生を対象にした食文化講座や組織研修会、「かかＣの市」の実演販売等を実施予定。 ○当班は、今後も組織活動強化に向けた取り組みを支援する。			

意見交換

かかＣの市

【かかＣの市】
昭和 59 年に開始した産直活動。どんぶり館で毎週日曜日にばら寿司や惣菜類、蒸し饅頭などの実演販売を通して消費者交流を図っている。

標　題	**令和７年度の台湾への柑橘輸出に向けて検討会と現地視察を実施**		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和７年４月 22 日	場所	八幡浜支局、真穴共選	
指導対象	台湾輸出用かんきつ生産者（２人）	連携機関	食ブランドマーケティング課 JA にしうわ	
普及指導内容	○今年度の台湾へのかんきつ輸出に向けて、生産者と JA、県の関係者による意識統一を図るため、検討会を開催するとともに、生産状況を把握するため現地視察を実施した。 ○検討会では、昨年度の台湾向け温州みかんと「甘平」の輸出状況の報告後、当室から今年産かんきつの生育や病害虫の状況を説明した。			
結果と今後	○管内のかんきつは引き合いが強く、輸出向けと同等以上の価格で、国内でも取引されているが、将来を見据えて令和７年度も引き続き台湾輸出に取り組むとともに、２月の雪害の影響で生産者が減ったため、新たな生産者を確保することを申し合わせた。 ○今後、当室では１月の輸出に向けて、台湾側の事業者とのオンラインミーティングや、台湾の農薬基準に適合した栽培管理等をサポートしていく。			

左：温州みかん生産者との輸出に向けた検討
右：現地視察の様子

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">土着天敵利用による害虫発生抑制効果を検証</td><td>機関名</td><td>農産園芸課
高度普及推進グループ</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和７年４月２日</td><td>場所</td><td colspan="2">今治市朝倉南</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>施設トマト生産者（１人）</td><td>連携
機関</td><td colspan="2">今治支局地域農業育成室</td></tr>
<tr><td>普及指導
内容</td><td colspan="4">○施設トマトでは、黄化葉巻病が問題となっており、そのウイルスを媒介するタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しており、薬剤での防除が困難になっている。
○当グループでは、今治市内の施設トマトにおいて、タバココナジラミ等の天敵となるタバコカスミカメを放飼し、その効果を検証している。
○この日は天敵・害虫の発生状況を調査するともに、ハウスから採取したタバコカスミカメを追加放飼した。</td></tr>
<tr><td>結果と今後</td><td colspan="4">○タバコカスミカメの定着は少なかったものの、害虫のコナジラミ類は確認されず、発生を抑制していることを確認した。
○今後も関係機関と連携して天敵の活用について検証を行い、定着状況に応じて追加放飼を行うなど、現場での普及に向けて指導を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
左：天敵のタバコカスミカメ
右：施設トマトに天敵を放飼</td></tr>
</table>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543